

患者ID番号
 登録日 (ex. 2001.02.28→2001年2月28日)
 姓名(仁シヤル) (ex. 山田花子→Y. H)
 性別 男性 女性
 生年月日 (ex. 2001.02.28→2001年2月28日)
 発症日時 年月日 時間
 不明時 推定年月
 (ex. 2001.02.28→2001年2月28日 18:00→18時00分)

発症時の症状

胸痛 有り 無し 嘔気嘔吐 有り 無し
 失神意識消失 有り 無し 呼吸困難 有り 無し
 動悸 有り 無し

その他

発症時の状況

労作時 事務労働 入浴中 睡眠中 飲酒中
 特記なし

その他

受診時刻

初期医療機関 (ex. 18:00→18時00分)

紹介医療機関 (ex. 18:00→18時00分)

病病連携または病診連携 有り 無し

初診医療機関への受診方法

徒歩 介助 自家用車 救急車

その他

主たる医療機関への転送手段

自家用車 救急車 その他

患者が医療機関受診を決心するまでの時間

受診時の主な身体所見

意識障害 チアノーゼ 呼吸不全 冷汗・生汗

ショック(収縮期血圧80mmHg以下)

酸素飽和度 大気測定 % 酸素投与時 %

退院日時 年月日 時間

不明時 推定年月

(ex. 2001.02.28→2001年2月28日 18:00→18時00分)

既往歴

心筋梗塞 有り 無し

心筋梗塞以外の心血管疾患 有り→回数回 無し

脳血管 有り 無し

喫煙 有り 無し 喫煙暦 本/日 年

喫煙指導 有り 無し

糖尿病 有り 無し

高脂血症 有り 無し 不明

透析を必要とする腎不全 有り 無し

発症前の最新クレアチニン値

その他

アスピリン内服 有り 無し

β -ブロッカー内服 有り 無し

その他の常用薬 有り →

無し

血液検査値 (発症後最初の検査値) 時間 不明

RBC Hb Ht WBC GOT

GPT CPK BS CRP

BUN Cr

コレステロール 中性脂肪 HDL

Max CPK (プロトコール要添付) 発症後の時間 時間

RBC $\times 10^4 / \mu\text{l}$ Hb g/dl Ht % WBC $\times 10^3 / \mu\text{l}$

GOT IU/l GPT IU/l CPK IU/l BS mg/dl

CRP mg/dl BUN mg/dl Cr mg/dl

コレステロール mg/dl 中性脂肪 mg/dl HDL mg/dl

心電図所見

ST上昇 ST低下 Q波 左脚ブロック

その他

不整脈

VPC 房室ブロック 除脈 VT Vf

梗塞部位

前側壁 前壁 下側壁 下後壁 下壁 側壁 後壁

心内膜下 その他 不明

(複数選択可能 心電図、超音波、心筋シンチグラム等から総合的に診断する)

心臓超音波所見 (最初に施行した時点)

EF % FS LVDD

心臓超音波所見 (発症 時間後)

EF % FS LVDD

今回の梗塞は

新規 再発 不明

来院時 Killip 分類

I 心不全なし II 軽度心不全 (下肺野にラ音) III 全肺野にラ音

IV ショック (血圧 90 以下、循環不全、意識低下、チアノーゼ、乏尿など)

不明

SWG 検査 有り 無し

Forrester 分類

I II III IV

SWG の値

CI RVPmean Pasystolic diastolic

緊急冠動脈造影

有り 無し 不明

冠動脈造影所見

TIMI 分類 0 I II III

1 75%

2 完全閉塞 番号を記入する

seg1 seg2 seg3 seg4 seg5 seg7 seg8

seg9 seg10 seg11 seg12 seg13 seg14 seg15

推定発症時刻から冠動脈造影開始までの時間 時間

主たる病院受診もしくは搬入から冠動脈造影開始までの時間 時間

コメント

責任病変に対する再灌流療法の有無

なし IVT ICT PTCA ステント

CABG その他のデバイス・治療法

(IVT: 血栓溶解薬静注 ICT: 血栓溶解薬冠動脈内注入 PTCA: バルーンによる冠血管形成術 CABG: 冠動脈バイパス術)

再灌流療法開始までの時間 時間 分

不明 再灌流療法なし

再灌流に成功するまでの時間 時間 分

再灌流以外に施行された治療

心肺蘇生術 カウンターショック ペーシング カテコルミンの投与

IABP 気管内挿管 PCPS 緊急バイパス術

梗塞に伴う心臓合併症

ポンプ失調 乳頭筋断裂 心自由壁破裂 心室中隔穿孔

右室梗塞 心膜炎 左室血栓とそれに伴う塞栓症 心室瘤

急性期(発症4週間以内)の死亡の有無

有り 無し 不明

合併症

脳梗塞 脳出血 脳以外からの出血 突然死 感染

死因

生存 ポンプ失調 心破裂・中隔穿孔 不整脈

手術後死亡 脳血管死 非血管非心臓死 再梗塞による死亡

不明

プロトコールに沿った心臓リハビリテーションの実施

有り 無し

貴施設のプロトコールの概要

4 週間後の転帰

生存 死亡 月日 時間
(e x . 2001.02.28 → 2001 年 2 月 28 日 18 : 00 → 18 時 00 分)

他院へ転院 転院日 転院先

退院時の状況

社会復帰 自宅療養 継続的入院療養 死亡

退院時処方

アスピリン内服 有り 無し

β-ブロッカー内服 有り 無し

その他 有り → 種類

無し

主として治療した病院での入院期間 日

集中治療管理料 円

主として治療した病院での総医療費 円

表 2

脳卒中登録フォーマット

病院ID番号

総ベッド数

NICUもしくはICU

総医師数

神経内科専門医数

脳神経外科専門医数

救急認定医数

救急指導医数

救急患者数

救急車搬入台数

脳卒中患者数

死亡率

脳死のみの死亡率

脳血管撮影件数

脳神経外科手術件数

脳卒中へ即時対応可能（診断と救命治療）な医師数

9時 20時 0時 3時

脳血管撮影の即時施行の可否

可 否

脳血管撮影に従事可能な医師数

9時 20時 0時 3時

脳神経外科手術の即時施行の可否

可 否

脳神経外科手術に従事可能な医師数

9時 20時 0時 3時

患者ID番号

登録日

性別 男性 女性

生年月日

疾患名 左右 左側 右側 両側

脳梗塞

脳血栓 脳塞栓 不明

内頸動脈（頸部） 内頸動脈（遠位部） 中大脳動脈（M1近位部）

中大脳動脈（M1遠位部） 椎骨脳底動脈 穿通枝領域 その他

クモ膜下出血

嚢状脳動脈瘤 解離性動脈瘤 脳動脈瘤以外

内頸動脈（眼動脈，後交通動脈，前脈絡叢動脈，分岐部，その他）

前大脳動脈（近位部，前交通動脈，遠位部，その他）

中大脳動脈（M1近位部，M2分岐部，遠位部，その他）

脳底動脈（先端部，上小脳動脈，前下小脳動脈，その他）

椎骨動脈（後下小脳動脈）

その他

脳内出血

被殻 視床 脳葉（皮質下） 小脳 橋

多発性 その他

発症日時

年月日

時間

不明時 推定年月

発症時の症状

意識障害 有り 無し 不明 頭痛 有り 無し 不明

眩暈 有り 無し 不明 嘔気嘔吐 有り 無し 不明

麻痺 有り 無し 不明 言語障害 有り 無し 不明

その他

発症時の状況

労作時 事務労働 入浴中 睡眠中 飲酒中 特記なし

その他

受診時刻

初療医療機関

紹介医療機関

病病連携または病診連携 有り 無し

初療医療機関への受診方法

徒歩 介助 自家用車 救急車

その他

主たる医療機関への転送手段

自家用車 救急車 その他

救急隊到着時の所見

意識レベル（JCS）

瞳孔径 / 対光反射 有り 無し 不明

麻痺 有り 無し 不明 呼吸 正常 異常 呼吸停止

脈拍 正常 異常 心停止 血圧（mmHg）

受診時の主な身体所見

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|-----|-----------|----|----|------|
| 意識レベル (JCS) | | | | (GCS) | | | |
| 瞳孔径 | / | | | 対光反射 | 有り | 無し | 不明 |
| 麻痺 | 有り | 無し | 不明 | 呼吸 | 正常 | 異常 | 呼吸停止 |
| 脈拍 | 正常 | 異常 | 心停止 | 血圧 (mmHg) | | | |
| 酸素飽和度 | 大気測定 | | | 酸素投与時 | | | |
| 退院日時 | 年月日 | | | 時間 | | | |
| | 不明時 | 推定年月 | | | | | |

既往歴

| | | | | | | | |
|-------------|----|----|----|-------|----|----|----|
| 心筋梗塞 | 有り | 無し | 不明 | 高血圧 | 有り | 無し | 不明 |
| 不整脈 | 有り | 無し | 不明 | 脳血管障害 | 有り | 無し | 不明 |
| 喫煙 | 有り | 無し | 不明 | 糖尿病 | 有り | 無し | 不明 |
| 高脂血症 | 有り | 無し | 不明 | 肝硬変 | 有り | 無し | 不明 |
| 透析を必要とする腎不全 | 有り | | 無し | 不明 | | | |

その他
常用薬

緊急治療

| | | | | | |
|--------|----|----|-------|----|----|
| 気管内挿管 | 有り | 無し | 降圧薬 | 有り | 無し |
| 鎮痛・鎮静薬 | 有り | 無し | 脳圧降下薬 | 有り | 無し |

来院時CT

| | | | | |
|--------|---------------|----|----|--|
| 年月日 | 時間 | | | |
| 脳梗塞 | 低吸収域 | 有り | 無し | |
| | early sign | 有り | 無し | |
| クモ膜下出血 | Fisher分類 | | | |
| 脳内出血 | 被殻・視床 (grade) | | | |
| | 脳葉・小脳・橋 (血腫径) | | | |

治療

カテーテル室または手術室入室日時 年月日 時間
 再灌流成功または血腫除去日時 年月日 時間

脳梗塞

再灌流療法 機械的破砕 P T A 血栓溶解薬動注 血栓溶解薬静注
 再灌流療法の結果 完全 不完全 (%) 再開通せず 末梢塞栓
 外科的治療 減圧開頭術 血管吻合術 血栓内膜剥離術
 内科的治療 アルガトロバン カタクロット 低分子デキストラン
 ヘパリン 低分子ヘパリン アスピリン パナルジン
 グリセオール マンニトール

脳内出血

外科的治療 開頭血腫除去術 外減圧術
 定位脳手術 脳室ドレナージ術
 血腫除去率 (%)
 内科的治療 グリセオール マンニトール

クモ膜下出血

外科的治療 開頭クリッピング術 外減圧術
 血管内手術 脳室ドレナージ術
 脳室・脳槽洗浄術
 内科的治療 グリセオール マンニトール
 カタクロット エリル 低分子デキストラン

入院後管理

人工呼吸管理 (日)
 気管切開術 有り 無し
 体温管理 低体温療法 目標体温
 達成体温
 低体温持続時間
 積極的な平温療法 解熱薬または冷却開始基準体温
 72時間以内の実測最高体温
 理学療法開始 有り (日目) 無し

頭蓋内合併症

脳血管攣縮 術後出血 水頭症 髄膜炎 痙攣

頭蓋外合併症

肺炎 血小板減少 肝機能障害 心不全 不整脈 消化管出血 イレウス

転帰

退院時 (Rankin score)
 3ヶ月後 (Rankin score)
 6ヶ月後 (Rankin score)

表 3

外傷ウツタインスタイル

A: 外傷に伴う損傷に関する用語と定義

| | |
|-------|---|
| 鈍的損傷 | 非穿通性であり、挫滅・裂創・切断・窒息を含む |
| 穿通性損傷 | 弾丸・ナイフ・くぎなどによるもの* |
| 長管骨損傷 | 大腿骨・脛骨・腓骨・上腕骨・橈骨・尺骨の骨折・脱臼 |
| 重度損傷 | ISS > 15 の損傷 具体的には B に示す 9 部位において、 ・少なくともひとつの致命的な損傷 ・少なくとも2つの致命的ではないが重症の損傷 ・少なくとも1の致命的ではないが重症の損傷と2つの中等度損傷 のいずれかを含むもの |
| 複合外傷 | 複数の受傷機転による外傷 |
| 多発外傷 | ・1つの腔（頭蓋腔、胸腔、腹腔）の外傷と2つの長管骨または骨盤の骨折 ・2つ以上の腔の外傷 |
| 主外傷 | AIS 3 以上の損傷 (AIS2 以下のものを1つに限り含める事が出来る) |

使用を避けるべき用語

・孤立性外傷 ・損傷形態 ・単独外傷

トリアージ

個々の負傷者に対する必要な治療や優先順位は、以下の項目をもとに評価される。

- 1) 生命徴候（バイタルサイン）
- 2) 個々の損傷
- 3) 年齢、基礎疾患
- 4) 外傷の発生した状況

B：受傷状況に関する要因

a. 外傷のタイプ

鈍的外傷*

穿通性外傷*

その他の要因

熱傷

凍傷

窒息

挫滅

裂創

切断

放射線傷害

複数

その他 (_____)

b. 外傷の重症度——AIS スコア——

| 解剖学的部位 | AIS スコア |
|-------------|-------------------|
| 1. 頭部 | 0. なし |
| 2. 顔面 | 1. 軽度 |
| 3. 頸部 | 2. 中等度 |
| 4. 胸部 | 3. 重度だが生命の危険を伴わない |
| 5. 腹部 | 4. 重度で生命の危険を伴う |
| 6. 脊椎・脊髄 | 5. 致命的な損傷 |
| 7. 上肢 | 6. 生存不可能な損傷 |
| 8. 下肢 (含骨盤) | |
| 9. 体表 | |

c. 受傷機転

・交通関連

自動車

二輪車

自転車

列車

飛行機

(乗用車、トラック)

船舶

その他 (_____)

運転手または乗員

歩行者

・乗り物での位置

乗客

前部座席

後部座席

運転手

列車/飛行機/船舶での座席番号 (_____)

・衝突の形態

正面

後面

側面

横転

車内からの放出

閉じ込められ

その他 (_____)

・乗り物の変形

- 前部 後部 側面 屋根 その他 (_____)
- 安全装置
 - シートベルト エアーバック ヘルメット
 - その他 (_____)
 - 高所墜落*
 - 高さ _____ 着地点の形態 _____
 - 傷害*
 - 銃創 刺創 鈍的外傷 その他
 - 自損*
 - 銃創 刺創 鈍的外傷 転落 裂傷
 - 薬物乱用 その他 (_____)
 - 窒息*
 - 疾病 絞首 縊首 爆発 気道熱傷
 - 化学熱傷 放射線被ばく 溺水 異物
 - その他
 - 電撃傷
 - 受傷場所
 - 自宅 勤務地 公共の場所 道路 運動中
 - 学校 工場 農場 その他 (_____)
 - 都心 郊外 過疎地 その他 (_____)

C : 救急システム

病院前因子

- 受傷日時*
 - 年月日 (/ /) 時間 (_____)
- 目撃者
 - あり なし
- 通行人による処置の有無*
 - 一般人 (あり、なし)
 - 医療従事者 (医師、看護婦、救急隊員、その他) (あり、なし)
- 救護の要請*
- 救急要請の電話先*

消防本部 その他

・司令員*

| | |
|-------------------|--------|
| プロトコールの使用 | はい/いいえ |
| 外傷の特別な教育を受けたことがある | はい/いいえ |
| 救命判断の専門家である | はい/いいえ |
| 病院到着前に治療を指導した | はい/いいえ |
| 搬送先 () | |

・救急隊の情報 (各機関毎に収集)*

・救急隊員*

I 課程 / II 課程 / 救急救命士

看護婦 (特別な外傷の教育を受けている) はい/いいえ

医師 (特別な外傷の治療を受けている) はい/いいえ

救急隊員の数 _____ 名

・搬送方法*

陸路 / 海路 / 空路

患者の輸送 (はい/いいえ)

・処置の方法*

基本的処置 (非侵襲的方法)

高度な処置 (侵襲的方法)

・距離

病院までの搬送距離 ()

・搬送の際の時間*

事故発生時刻* ()

救急要請時刻* ()

救急要請覚知時刻* ()

出場司令時刻* ()

出場時刻* ()

救急隊現場到着時刻* ()

傷病者接触時刻* ()

現場活動時間* ()

救急車出発時刻* ()

病院着* ()

病院発 ()

転送先病院着 ()

病院間転送因子

- ・ 適応*
 - 通常施設が利用できない
 - 特別な施設が利用できない
 - その他 ()
- ・ 日／時間／場所／時間因子*
 - 転送依頼を受けた時刻 ()
 - 転送を承認した時刻 ()
 - ベッドからストレッチャーに移った時刻 ()
 - 転送開始時刻 ()
 - ストレッチャーから転送先病院のベットに移った時刻 ()
- ・ 緊急性の有無*
- あり／なし
- ・ 救急隊関連情報*
- ・ 救急隊員*
 - I 課程／II 課程・標準課程／救急救命士
 - 看護婦（特別な外傷の教育を受けているか → はい／いいえ）
 - 医師（特別な外傷の治療を受けているか → はい／いいえ）
- ・ 搬送手段*
 - 陸路／海路／空路
 - 紹介病院所有／受入れ病院所有／第3者機関
- ・ 転送中の処置*
 - BLS／非侵襲的
 - ALS／侵襲的
 - ICU／集中治療
- ・ 距離
 - 基地から病院までの距離 ()
 - 病院間転送の距離 ()

外傷センター／受け入れ病院における要因

- 外傷専門のチーム*
- 外傷専門チームの有無（あり／なし）* 病院前から／院内待機／オンコール*
- 外傷プロトコールの有無（あり／なし）*

緊急召集体制（あり／なし）*

外傷患者搬送に対する召集体制（1度に全員召集／段階的召集）*

・外傷班

| 外傷班 | 人数 | 特別な外傷教育を受けた人数 | 外傷チーム統括者 |
|--------|----|---------------|----------|
| 救急医 | | | |
| 外傷外科医 | | | |
| 麻酔科医 | | | |
| 脳外科医 | | | |
| 放射線科医 | | | |
| その他の医師 | | | |
| 看護婦 | | | |
| 技師 | | | |
| 救急救命士 | | | |

・ 24時間体制で稼働している部門

- 輸血部
- CT検査
- 心臓血管外科部門
- 脳外科部門
- 中央検査部門
- 指定監査部門

・ 日／時間／場所／期間

- 施設到着時刻* ()
- 医師の診察開始時刻* ()
- 最初のX線検査開始時刻* ()
- 最初のエコー開始時刻 ()
- 最初のCT開始時刻 ()
- 救急室から出た時刻 ()
- 手術室到着時刻* ()
- 皮膚切開時刻 ()
- 手術終了時刻 ()
- 術後回復室到着時刻 ()
- ICU到着時刻* ()
- ICU退室時刻* ()

退院日* ()

リハビリ施設退院日 ()

職場復帰日 ()

D : 患者の評価と治療

- ・ ISS (injury severity score) による外傷の解剖学的重症度評価 (AIS90 による)*
- ・ 剖検の所見
- ・ 時間経過 (最低限必要なもの)*

| 要素 | 時間 (分) |
|----------|--------|
| 現場 → 初療室 | |
| → 手術室 | |
| → ICU | |
| → 一般病棟 | |

- ・ Glasgow coma scale (薬剤投与に先立ち評価。二次評価においては薬剤による影響についても記載する。)*
- ・ 呼吸機能*
自発呼吸/補助呼吸 呼吸回数 (/分) 呼気終末CO₂濃度 ()
- ・ 心拍数*
心拍数 (/分) 心電図による
- ・ 血圧*
出来れば自動血圧計で測定 (測定方法を明記)
自動血圧計の値 _____/_____
血圧計データの自動記録が出来ない場合にはチャートに記載
- ・ パルスオキシメータのデータ*
SpO₂ (%) 測定不応の場合には、その旨を記載
- ・ 体温 (°C)*
測定方法を記載
- ・ 血液ガス分析
pH pCO₂ pO₂ BE HCO₃⁻
電解質
- ・ ヘモグロビン*
Hb / Ht
- ・ 血糖*

- ・患者の状態や受傷機転により必要な検査結果（乳酸、一酸化炭素ヘモグロビン濃度、薬物、アルコールなど）
- ・心拍停止（あり／なし）* 病院前 病院内
- ・呼吸停止（あり／なし）* 病院前 病院内
- ・検死によるデータ（転帰の項参照）
- ・治療（施行時間を記載）*
 - 病院前
 - 初療室
 - 手術室
 - ICU
 - その他
- ・酸素療法（方法と酸素濃度を記載）*
- ・固定方法*
 - 頸椎カラー マジックベッド 脊椎ボード その他
- ・気道管理*
 - 経口エアウェイ 経鼻エアウェイ ラリングアルマスク
 - コンビチューブ 経口挿管 経鼻挿管
 - 嚕状甲状靭帯切開または穿刺 気管切開
- ・換気*
 - 自発呼吸 手動 機械
 - 胸腔内脱気（穿刺針 チューブ ）
- ・出血のコントロール*
- 実施 実施せず
- ・静脈路確保*
 - 実施 成功／失敗 穿刺回数 回
- ・骨髄輸液*
 - 実施 成功／失敗 穿刺回数 回
- ・輸液療法*
 - 輸液製剤 輸液量 輸液時間 静脈路の数
 - 中心静脈の確保（あり／なし）
 - 高流量輸液セットの使用（あり／なし）
- ・ショックパンツの使用*
- ・切断や開胸などの外科的治療は状況と術式を明記しなければならない
- ・その他の侵襲的処置*
 - 診断的腹腔洗浄法（DPL） 心嚢穿刺 胸腔ドレナージ
- ・薬物の情報（麻酔薬、筋弛緩薬、鎮痛薬、鎮静薬、昇圧薬、その他について具体的に記載）*

| 薬剤の名前 | 量 | 投与した時間 |
|-------|---|--------|
| | | |
| | | |

- ・CT、X線撮影までの時間*
- ・心肺蘇生法（閉胸式 / 開胸式 / ミニ開胸式）*

合併症／副作用

合併症の有無について記載すると共に、その内容及び転帰との関係につき記載

酸素療法（あり／なし）*

固定（あり／なし）*

気道確保（あり／なし）*

呼吸管理（あり／なし）*

出血管理（あり／なし）*

静脈路管理（あり／なし）*

骨髄輸液路確保（あり／なし）

輸液（あり／なし）*

外科的手術（あり／なし）*

他の侵襲的処置（具体的に _____ ）（あり／なし）

薬物（薬剤名 _____ ）（あり／なし）*

心肺蘇生法（あり／なし）*

E：転帰の詳細

- ・転帰（QOL、罹病率など）*

それぞれの治療段階ごとに

病院内

退院後（3 / 6 / 12ヵ月後）

広く使用されている転帰判定基準

グラスゴー転帰スケール

職場復帰（要した時間／元の職業／能力低下の程度）

その他の基準（FIM、SF36など）

患者の意見

死亡率（外傷による死亡は受傷後30日以内と定義されている。）*

- ・死亡した日時（ _____ ）*

・死亡の場所 (_____)*

- 発見時には死亡していた
- 事故現場で死亡
- 病院到着時死亡
- 病院内で死亡
- 退院後死亡

・死亡確認*

臨床的死亡の時刻

死亡確認時刻

- 心肺蘇生をしなかったか (はい/いいえ)
- 心肺蘇生を中止したか (はい/いいえ)
- 治療を中止したか (はい/いいえ)

・死因*

基礎疾患との関連

剖検を行ったか (はい/いいえ)

剖検所見 (_____)

・合併症及び事故 (予後不良と関係あると考えられるもの、問題発生時刻を記載)*

- 気道確保に関する問題 (_____)
- 換気に関する問題 (_____)
- 循環に関する問題 (_____)
- その他の問題 (_____)
- 感染/敗血症/多臓器不全 (重症度スコアを記載) (_____)
- 併存疾患 (_____)
- 年齢 (_____)
- その他の処置 (_____)

以下の因子は、転帰に代わる指標と考えられている。

- ・ ICU 入室期間
- ・ 入院期間
- ・ 総医療費

*あり：コアデータ

*なし：オプションデータ